

チタンボディー内部注水式ハンドピース

Ti-Max X

ティーマックスXS

X65L / X65

取扱説明書

MADE IN JAPAN

認証番号: 219ALBZX00014000

⚠ 注意

一般的な注意

- ・使用する前にこの取扱説明書を読み、各部の機能をよく理解してから使用を開始してください。この取扱説明書はご使用になる方がいつでも見ることのできる場所に保管してください。
- ・改造したり、分解したりしないでください。改造や分解をされた場合は保証できません。
- ・強い衝撃を与えないでください。特に落下させないように注意してください。
- ・酸化電位水（強酸性水、超酸性水）、または滅菌液で、洗浄、浸漬、拭き取りは行わないでください。
- ・機器及び部品は、必ず定期的に点検を行ってください。
- ・長時間使用していない状態で再び本製品をご使用の際は、ガタ、振動、異音、発熱に注意して空回転させ、異常のないことを確認してからご使用ください。

使用上の注意

- ・チャック開閉リングは回転中は絶対に回さないでください。
- ・チャック開閉リングが開いている位置やバーを取り付けていないときは、回転させないでください。ハンドピースが回され、駆動側のモータに傷がつき取り外しができなくなる、または急激な発熱の恐れがあります。
- ・曲がったバー、傷の付いたバー、規格に合わないバーは使用しないでください。これらのバーを使用しますと、回転中いきなり曲がったり折れたりし危険です。
- ・装着しようとするバーのシャンクはきれいにしてください。ゴミ等が内部に入ると芯振れやチャック把持力が無くなる等の原因にもなります。
- ・モータ、バーを取り付けたとき、必ず軽く引いて確実に装着されていることを確認してからご使用ください。
- ・バーストッパーを取り付けて使用する際は、ストッパー、及びコントラバーを止まるところまで差込み、軽く引いて確実に装着されていることを確認してからご使用ください。
- ・コントラバーをご使用の際、ハンドピース内にバーストッパーがセットされていることを確認してから取り付けてください。コントラバーが中に入り込み、取り出せなくなる恐れがあります。
- ・ハンドピースバーとバーストッパーの併用はしないでください。バーがきちんと把持されず飛出しけがをする恐れがあります。
- ・ショートタイプのコントラバーはご使用にならないでください。バーがきちんと把持されず飛出しけがをする恐れがあります。
- ・このハンドピースは治療およびチェアサイドでの義歯の調整など、精密技工用として設計されています。刃部の直径が4mm以上のバーで重切削を続けるとベアリングの寿命が短くなったりチャックからバーが抜けることや、抜けなくなることがあります。
- ・ガタ、振動、音、温度（発熱）に十分注意して、予め患者の口腔外で回転させ点検を行ってください。その時少しでも異常を感じたら、すぐに使用を中止し販売店までご連絡ください
- ・使用中、少しでも異常を感じたら使用を中止して、販売店までご連絡ください。
- ・切削時は安全、健康のため保護眼鏡、防塵マスク等を着用してください。

注油時の注意

- ・使用後は必ずパナスプレープラス、または弊社製自動注油システムによって注油してください。オートクレーブ前にも必ず注油してください。
- ・パナスプレープラスにEタイプスプレーノズルを差し込んでからスプレーしてください。
- ・パナスプレープラスを逆さにして使用しないでください。
- ・パナスプレープラスで注油する際はハンドピースをしっかりと押さえて圧力により飛び出さないよう注意してください。
- ・注油は先端よりオイルが出る位（約2秒間）行ってください。

1. 特長

- ・Ti-Max X65L、Ti-Max X65は付属のバーストッパーをとりつけることによりコントラバー（JIS T 5504-1に規定された軸部形式1のバー）を取り付けることが可能です。
- ・先端に設けたクリーンヘッドシステム（PAT.）により唾液、血液等の異物がハンドピース内部に入りにくい構造になっています。
- ・ISO.（国際規格）に基づいて製作されていますので各社の内部注水式エアモータやマイクロモータに接続し、使用できます。
- ・切削時の振動を抑えた設計により、正確な作業が行えます。
- ・芯振れが小さく発熱もほとんどありません。
- ・135°Cまでの温度で繰り返しオートクレーブ滅菌が可能です。

2. 各部の名称、寸法、仕様

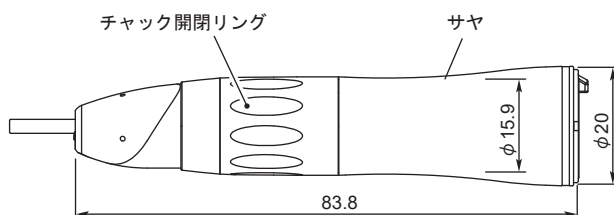


図 1

一般的名称	ストレート・ギアードアングルハンドピース	
販売名	ティーマックスXS	
型式	X65L	X65
許容最高回転速度	40,000min ⁻¹ (rpm)	
使用バー	φ2.35mm コントラバー（JIS T 5504-1に規定された軸部形式1）及びハンドピースバー（JIS T 5504-1に規定された軸部形式2）	
バー装着の長さ	29.4mm（ハンドピースバー）	
バー最大の長さ	44.5mm（ハンドピースバー）	
重量	72g	68.1g
照明	グラスロッドタイプ照明	—

3. ハンドピースとモータのセット方法

取り付ける際は、ハンドピースの位置決めを、モータの位置決めに合わせてまっすぐ差し込みます。このとき、ハンドピースとの接続部分にライトのスイッチがあるモータの場合は、ライト機能をご使用になれます。（X65L）

取り外しは、モータ前部とハンドピース後部をしっかり持ってまっすぐ引き抜きます。

⚠ 注意

- ・ハンドピースの着脱は、必ずモータの回転が完全に停止しているのを確認してから行ってください。
- ・Eタイプ（JIS T 5904に規定されたジョイントを有する）、最高回転速度40,000min⁻¹以下のモータと接続してください。

4. 切削バーの着脱方法

⚠ 注意

- ・切削バーの着脱は、必ずモータの回転が完全に停止しているのを確認してから行ってください。

- (1) ストレートバーをご使用の場合
 バーを取り外す場合は、チャック開閉リングを“O”方向にカチンと音がするまで回します。
 またバーを取り付ける場合は、チャック開閉リングを“C”方向にカチンと音がし、チャック開閉リングのO印があう位置までまわせばバーは固定されます。

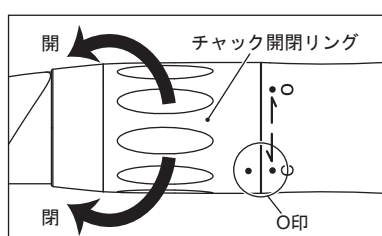


図 2

(2) コントラバーをご使用の場合

- ①チャック開閉リングを“O”方向にカチンと音がするまで回します。
- ②付属のバーストッパーをチャックへ差し込みます。(図3)
- ③次にコントラバーをバーストッパーを奥へ押し込みながら止まるところまで差込みます。
- ④チャック開閉リングを“C”方向にカチンと音がし、チャック開閉リングのO印があう位置まで回せばバーは固定されます。

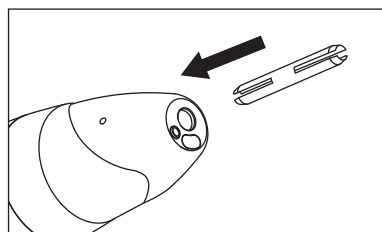


図3

■バーストッパーの取り外し

- ①チャック開閉リングを“O”方向にカチンと音がするまで回します。
- ②付属の抜き治具をチャックに差し込み、バーストッパーの溝に引っ掛けて引き抜きます。(図4)

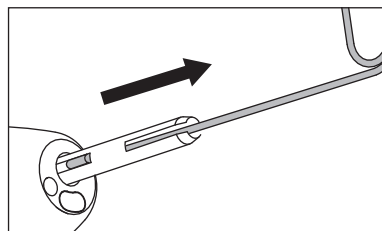


図4

⚠ 警告

- ・切削バーを固定した後、チャック開閉リングのO印があることを確認してください。O印がずれた位置で回転させるとハンドピースが発熱し、火傷をすることがあります。

⚠ 注意

- ・曲がったバー、傷の付いたバー、変形したバー、規格に合わないバー、バーの切欠部分にキズや変形のあるコントラバーは使用しないでください。これらのバーを使用しますと、ハンドピース内部を傷つける、または回転中いきなり曲がったり折れたりし危険です。
- ・装着しようとするバーのシャンクは、常にきれいにしてください。ゴミ等がチャック内に入ると芯振れやチャック把持力が無くなる等の故障の原因となります。
- ・バーの浅咬みはしないでください。ベアリングの早期破損の原因となります。
- ・使用しないときも切削バーやテストバーを装着しておいてください。

5. 注油について

注油は使用後、オートクレーブ前には、必ずパナスプレープラスまたは弊社製自動注油システムによって行ってください。

■パナスプレープラスによる注油(図5)

- ①パナスプレープラスに、Eタイプスプレーノズルを強く差し込みます。
- ②ハンドピースから、バーを取り外します。
- ③Eタイプスプレーノズルをハンドピース後部へ差し込み、2秒間くらいスプレーします。

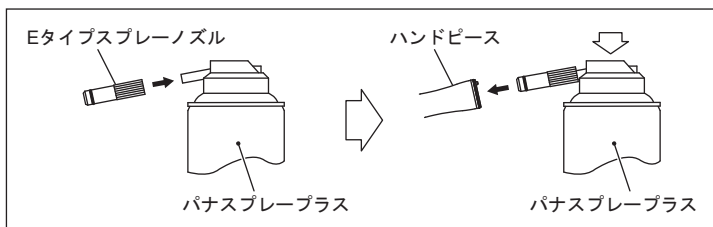


図5

⚠ 注意

- ・注油する際は、ハンドピースをしっかり押さえてスプレーの圧力によって飛び出さないように注意してください。
- ・スプレーは、ハンドピース先端よりオイルが出るくらい(2秒間くらい)まで行ってください。
- ・パナスプレープラスを、逆さにして使用しないでください。

■弊社製自動注油システムによる注油

弊社製自動注油システムを使用する場合、自動注油システムの取扱説明書をよく読んだ上で、使用してください。

6. 滅菌について

弊社では、滅菌についてはオートクレーブ滅菌を推奨します。初めてご使用になる時、及び各患者ごとの治療が終わりましたら、バーを取り外し下記のとおりオートクレーブ滅菌を行ってください。

■オートクレーブ滅菌方法

- ①表面の汚れをブラシ(金属製は不可)等で払い落とし、消毒用アルコールを含ませた綿等で拭き取ります。
- ②パナスプレープラスにより注油します。(5. 注油についてを参照)
- ③滅菌バッグに入れ封印します。
- ④135℃までの温度でオートクレーブ滅菌を行います。
例) 121℃で20分間、または132℃で15分間。
- ⑤使用するまで滅菌バッグにいれたまま、清潔な状態を保てる場所に保管してください。

⚠ 注意

- ・PVA(ポリビニルアルコール)等の水溶性の接着成分を含む滅菌バッグは使用しないでください。滅菌中に溶出した接着成分が製品内部に入り込み、回転不良(固着して作動しない)等の不具合を起こす場合があります。
- ・乾燥工程において135℃をこえてしまう場合は、乾燥工程を省いてください。
- ・オートクレーブのチャンバー内最下段はヒーターに近く局部的に設定温度を超える場合がありますので、上段または中段に入れるようにしてください。
- ・急加熱、急冷するようなオートクレーブは行わないでください。温度の急激な変化によりガラスロッドが破損する恐れがあります。(X65L)
- ・酸化電位水(強酸性水、超酸性水)、または滅菌液で、洗浄、浸漬、拭き取りは行わないでください。
- ・保管の際は気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分を含んだ空気などにより悪影響が生ずる恐れのない場所に保管してください。
- ・滅菌直後は高温となっていますので触れないようご注意ください。

7. グラスロッド端面の清掃(X65L)

グラスロッド端面に切削粉等が付着した場合は、綿棒等にアルコールをしみ込ませていねいに拭き取ってください。(図6)

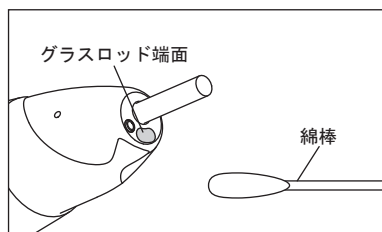


図6

⚠ 注意

- ・先のとがった金属製の針や刃物で掃除すると、グラスロッド端面に傷が付き光の透過率が下がります。もし傷等がついて暗くなった場合は、販売店までご連絡ください。

お客様相談窓口

☎0120-7242-56

9:00-17:00/土日・祝日を除く

cs@nsk-nakanishi.co.jp



ウェブサイトへ
アクセス

株式会社ナカニシ

〒322-8666 栃木県鹿沼市下日向 700

TEL:0289-64-3380

nsk-dental.jp